

桐蔭学園アクティブラーニング公開研究会 2017 にあたって

- 桐蔭学園が組織的にアクティブラーニング型授業を導入してはや 2 年半が経ちます。昨年の巻頭言を読み返すと、桐蔭学園におけるアクティブラーニング型授業の礎はある程度築かれた、しかし次のようなことを併せて取り組んでいく必要があると進行中の課題を述べています。

-
- ・ 全教科の活用 II 問題集の作成
 - ・ AL 型授業の評価（アセスメント）体制（2016・2017 年度試行、2018 年度より本格実施）
 - ・ キャリア教育の推進（高 1・2 年・中等 4・5 年）
 - ✓ SHR（1 分スピーチ）
 - ✓ HR での活動
 - ✓ ジョブシャドウイング（男子高 1 年のみ）
 - ✓ 課外のプロジェクト学習、研修旅行を学園カリキュラムに位置づける
 - ✓ 保護者セミナー
 - ・ 探究的な学習
 - ✓ 中 1～高 1、中等 1～中等 4 までの 4 年間カリキュラムとして科目化
(2016 年度中 1・中等 1 から実施)
 - ✓ 課外での企業コラボによるプロジェクト学習
 - ・ 中学入学時の導入教育
 - ✓ シアターラーニング（音楽座ミュージカル）
 - ・ カリキュラム・アセスメントと IR（Institutional Research）体制の整備
 - ✓ 河合塾「学びみらい PASS」の実施（高 1・2 年・中等 4・5 年）
 - ✓ 全国学力・学習状況調査への参加（中 3・中等 3）（2017 年度～）
 - ✓ ベネッセ「中学総合学力調査」の実施（中 1・2 年、中等 1・2 年）
 - ✓ 発達調査（自律・自立の程度、アイデンティティ発達、学校適応など）
ほか
(2016 年度アクティブラーニング公開研究会「巻頭言」より)
-

- それぞれの活動における達成度は横に措いても、この 1 年間これらの活動にしっかり取り組んできたようにふり返って思います。いま、桐蔭学園で求められているのは、アクティブラーニング型授業単体の成果ではなく、またキャリア教育や探究的な学習単体の成果ではなく、行事や HR、学年体制などあらゆる関連する取り組みを有機的に繋げて、つまり総合的なカリキュラム・マネジメントをおこない、要所要所でのアセス

メントをおこない、学園が目標とする生徒の学びと育ちを確かなものとしていくことです。

- 2017年度は、アクティブラーニングのユニットチーム、AL委員と構造的に推進体制が構築されており、昨年までのように、私が前面に立って指導をすることはほとんどなくなっています。この度の公開研究会も、ユニットリーダーの先生方が準備を進めてきて、私はほとんど関わる事がなかったほどです。改革3年目を迎える今、全学年、全教員がアクティブラーニング型授業を実施する体制へと移行しており、まさに内部の本質的な取り組みへと堅実に仕上げていく段階に来ています。
- 来年2018年度は、共学化に伴う桐蔭学園の新高等学校の発足を迎えます。再来年2019年度は、同じく共学化に伴う新中等教育学校の発足を迎えます。アクティブラーニング型授業。キャリア教育や探究的な学習も含めて、この3年取り組んできたさまざまな活動をこの学校の組織的改編に合わせて一気に仕上げていく運びです。

ご参加の皆さまには、改革3年目における桐蔭学園のアクティブラーニング型授業を、以上の文脈で理解し、見てくださればと思います。教育顧問として、ご参加に心よりお礼を申し上げます。

京都大学教授・桐蔭学園教育顧問
溝上 慎一